

### 第3回 県立横須賀高等学校 学校運営協議会 全体会記録

#### 1 校長あいさつ

##### ・学校の様子

12月上旬2学年修学旅行 長崎・福岡 インフルエンザで大変だった。

1月17, 18日共通テスト 全国的に点数が下がっている。

学力向上進学重点校エントリー校

入学者選抜が始まる 願書はデータで送られてくる。

SSH3期に向けてのヒアリング それに向けての準備を進めている。

卒業式 全日制3月4日 定時制3月3日

学校評価に対して忌憚のないご意見をいただきたい。

#### 2 会長あいさつ

##### ・引き続きよろしく申し上げます。

#### 3 本校の教育活動 グループの取組について

##### (1) 定時制 小川総括

###### ・生徒指導

少人数授業 母国語が日本語でない生徒の対応 年3～4回教育相談会の実施

様々な課題を抱える生徒に対応すべく支援方法の知識など校内研修を実施

###### ・進路指導

昨年よりは希望する進路に進めている。

一方自分に自信が持てない、職業観が持てないなどの理由で積極的に進路活動を進めることが難しい生徒への支援が課題

###### ・その他

地域貢献活動として地域清掃を実施 第1回7月3日 第2回3月24日(予定)

卒業予定者 三修制を含めて11名

##### (2) 全日制

###### 学問探究グループ 池上総括

4年間の目標を受け、今年度は地域への発信、SSHNEWSの発行

科学技術コンテスト系への参加9名

3期に向け申請 その中で地域に向けての発信を充実させていく。

教頭補足

STEAM教育事業の一つとして公開研究授業、授業力向上に向けた研修の実施

###### 進路グループ 三戸総括

共通テスト 今年度は難化の傾向 国公立志望98名 文系25名 理系73名

77期延べ164名の国公立受験 61名の合格

未来ナビ・イマナビの実施

補習の実施 難関大学にむけた内容で依頼 入試問題に触れた担当が3年生だけでなく1, 2年生の授業にも取り入れるようになった。

来年度から3年間、今後5年間を見通した進路指導をモデルとして示していきたい。

広報図書グループ 龍見総括

HPの充実 部活動紹介が十分ではなかった。担当者を決め、HP用のフォームに記入してもらうようにした。

部活動体験フェアの実施

広報タスクフォースの活動

動画を作成できる人材が不足

私学ではなく横須賀高校を進学先として考えてもらう工夫

生徒支援グループ 山田総括

体育祭 9月から6月へ移った 昨年度のこの時期から準備を始めた。

時期の変更はあったが、生徒主体の形で実施できたのではと評価している。

10月文化発表会 文化部の活動の場として実施 体育系部活や所属していない生徒たちのかかわり方が難しかったのでは

部活の試合結果等を朝の打ち合わせで共有することで生徒の励みになった。

教育相談 登校が難しい生徒への支援をSC,SSWと連携しての体制づくり

総務グループ 片桐総括

地域の防災訓練への参加を来年度はより現実的にボランティアバンク事業の後継についてPTA等と検討していく。

校内の防災訓練として地域別集合訓練を実施した。災害時の帰宅を想定

教育環境整備費を生徒の教育活動にかかる内容で執行している。

副校長補足

7/30 大津波警報発令の際、警報が解除されるまで生徒を校舎の3回に留め置いた。

地域の防災訓練について 正門左側にある飲料水の100tタンクの確認

万一の際は武道場を避難場所として開放する契約となっている。

教務グループ 輪湖総括

STEAM教育 教科等横断型の授業の実施 主体的、論理的思考力の向上につながった。

より深めるために事前の研修を深めることでより効果が得られると考える。

学会、ディベート大会への参加 課題研究意欲の高まりと評価している。

#### 4 意見聴取

##### 鈴木委員

- ・小中学生向けの実験講座 今年度は衣笠小学校で行ったと伺った。  
中学校でも（授業として）探究活動をやっているか  
⇒（池上）やっている 共同でやっているところもある。  
私学は中高でのつながりができる。3期事業計画に地域への発信の拡大

##### 丸瀬委員

- ・定時制 電子黒板の活用 進路に向けての指導  
全日制 子どもたちのチャレンジする気持ちが育ってきていると感じる。  
子どもたちだけでなく教師側が向上しようとするのが肝要  
いろいろなことをやっているのにもったいないと思うのはマスコミへの  
発信がもっとあっていいのではないか。  
⇒（池上）ポスターセッションの時に神奈川新聞、タウンニュースなどに  
地域とのかかわり 一時避難場所として設定されていることもある。  
少子高齢化のなかでかかわり方を考えていっていただきたい。

##### 西垣委員

- ・定時制 日本語以外の生徒はどれくらいか  
⇒（小川）フィリピン、ネパール  
全日制 学校説明会に関連して 中学生の部活動体験は継続を  
プリンキピア（探究活動）の進め方が中学生に伝わっていないのではないか  
成果物を提示するなど説明会でわかるような工夫を

##### 大竹委員

- ・朋友会で話題になるのが、「横高はどうなっているんだろうか」ということ  
私学が無償化になり横高に行こうと思うのか 校舎は古い、交通の便は悪い、など  
横高に行きたいと思ってくれるような広報活動を期待する。  
教育環境の整備 ボランティアバンクを残すのか  
海外への派遣事業はとてもいいことと感じる 継続を望む。